

第21回 世界コンピュータ将棋選手権で優勝しました!

5月3日(火)～5日(木)に開催された「世界コンピュータ将棋選手権」において、富士通セミコンダクター ASIC事業部 海外マーケティング部の伊藤英紀さんが優勝しました。伊藤さんは、並み居る強豪を押し分け、7回目の出場にして初めての優勝です。

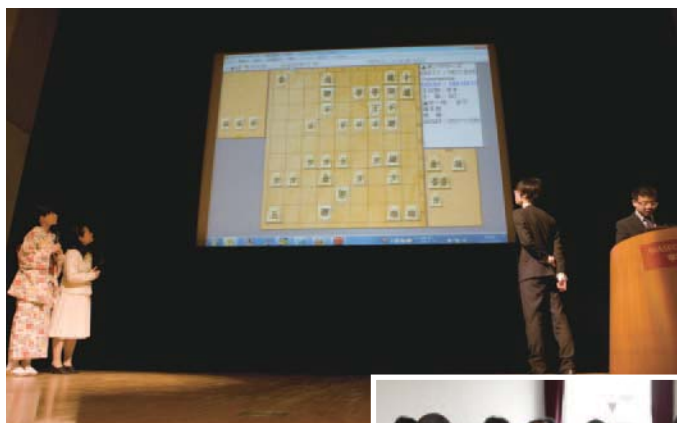
「世界コンピュータ将棋選手権」は、出場者自身が開発した将棋ソフトを使ったシステム同士を対戦させ、最強のコンピュータ将棋を選ぶものです。1990年12月に第1回大会が開催され、今年で21回目となる由緒ある大会で、富士通は第6回大会(1996年1月)から協賛しています。

この大会で優勝するコンピュータ将棋の強さは、現在ではアマチュアのトップレベルに達しており、昨年、コンピュータ将棋がプロの女王王将に勝利したことをご記憶の方も多いと思います。今年もプロ棋士との対戦が検討されており、実現した場合には、伊藤さんのコンピュータ将棋が対戦相手の最有力候補となります。

ここで「将棋ソフト」といわず、あえて「コンピュータ将棋」と言っているのは、動作させるハードの性能も含めているからです。実際、今回は200台以上のサーバを接続したシステムも出場しました。



▲伊藤さんのシステム「ボンクラーズ」は3台のPCで構成されている



▲決勝戦は早稲田大学国際会議場で解説会が行われた
左側は聞き手の竹部女流三段、中村女流二段、右側は解説の阿部四段と勝又六段



▲対局中の様子。コンピュータ同士が対局するため、通常の間人同士の対局の雰囲気とは異なり、開発者同士が和気あいあいと技術的な話題に花を咲かせている



▲アドバンストプロダクト事業本部 ASIC事業部 海外マーケティング部 伊藤英紀さん

優勝したシステム「ボンクラーズ」について

伊藤さんに解説してもらいました

このシステムはPC3台をイーサネットで接続し、協調させて指し手を考えることが最大の特徴です。この技術を専門用語で「クラスタ並列」といいます(PCを複数台つなげたものを「PCクラスタ」という)。別の将棋ソフトで「ボナンザ」というプログラムがあるのですが、ボンクラーズの3台のPCのそれぞれで動いているプログラムは、このボナンザを参考にして開発しました。それで「ボナンザ・クラスタ」、からこの名前になっています。

クラスタ並列の技術はまだ新しい、発展途上の技術です。今大会には約40のソフトが出場しましたが、そのうちクラスタ並列を使っているのはボンクラーズを含めて3つのみ。他の2つは大学のチームで、それぞれ17台/263台のCPUを使用していました。ですがそれだけたくさんCPUを並べてもそれを有効に活用できてはいなかったようで、3台と少ないながらきっちり3台並列の効果を出し切ったボンクラーズが勝利を収めました。

【写真提供：コンピュータ将棋協会 山崎亜抄子様】